

歴 史 I (History I)	2 年・通年・2 単位・必修 2 E S I C 担当 大矢 良哲	
〔準学士課程（本科 1-5 年） 学習教育目標〕 (1)		
〔講義の目的〕 歴史の学習の目的は、過去に学ぶ、つまり今と未来への道標を探ることにある。日本史の場合、その目的は、過去の文化的伝統の中からわれわれが本当に誇り得るもの、明日の日本の発展、さらに人類全体の向上のために貢献し得るもの、反対に、日本民族の進歩を妨げてきたもの、今後一日も早く清算されなければならないものを的確に見分け、それぞれにふさわしい正当な位置づけを行うところにある。歴史では基本的な事実を正しく理解し、歴史的なものの見方を育てていきたい。		
〔講義の概要〕 講義は、授業時間数の関係で原始から近世初頭までの通史と近現代の一部に絞り、日本文化の発展の大筋を把握できるようにする。本来ならば 2000 年代の現代にまで及ぶべきであるが、週 2 時間という制約の中では、通史は近世初頭以前に限り、鎖国以後は、問題点をざっと見渡す程度にとどめることになる。近現代については“十五年戦争”を中心に学習する。また、夏休みには平和学習についてのレポートを課す。		
〔履修上の留意点〕 歴史学という学問は、過去に向かってわれわれの探究心を無限に伸ばしていくものだから、知的遊戯としての楽しさを含んでいる。しかしそれは過去を過去としてのみ後ろ向きに見るものではない。むしろ前向きの実践的な性格の強い学問であり、人々の生き方そのものに直結している。歴史は暗記ものだというような考え方は、この点が理解されてないことによるもの。歴史学は、経済学・法学・政治学などとは違って、社会諸現象の総体を有機的に捉え、これを時間の経過において問題にするところに特色がある。テストの際に暗記さえすればよいという考えは捨てていただきたい。むしろ歴史の流れを理解するほうが大切で、そのために多少の歴史的用語の学習が必要となるのである。		
〔到達目標〕 講義が歴史の道筋の理解と、将来像の構築の一助となれば幸いである。学生諸君には、この学習を通じ、将来への正しい進路を探る力を身につけてもらいたい。		
〔自己学習〕 自分なりにノートの取り方を工夫し、予習・復習を行うこと。秋には自主的な課題を出すので、積極的に取り組んでももらいたい。		
〔評価方法〕 以下の 3 項目で総合的に評価する。定期試験約 60%、レポート約 30%、その他約 10%。 ①定期試験…前期中間・後期中間・学年末の試験の評価。 ②レポート…夏休みの課題の評価。 ③その他…出席状況・受講態度・講義ノートの提出の評価。 ◎ 前期末の総合評価は、前期中間試験の評価と課題レポートの評価との平均点によって総合的に評価する。 ◎ 秋には文化財についての自由研究課題(奈良国立博物館の活用)を出すので、それに取り組んだひとには、自主的な努力を評価し、学年末成績に数点の加点を行う。		
〔教科書〕 教科書としては、簡潔に歴史の筋道を記述した『もういちど読む 山川日本史』（山川出版社）を用い、講義は主に『山川 ビジュアル版 日本史図録』（山川出版社）によってすすめる。 〔補助教材〕 補助教材としては、ビデオ教材や配布プリントなどを使用する。		
〔関連科目・学習指針〕 本教科は地理・歴史Ⅱ（世界史）・政治経済・法学・経済学等の科目に関連する。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	〔原始・古代〕 歴史とは、文化のはじまり	日本歴史をいかに学ぶか、 原始社会の生活 教科書 2～	
第 2 週	農耕社会の誕生	縄文社会から弥生社会への移行 8～	
第 3 週	小国の時代と古墳	邪馬台国と大和王権の誕生の謎 1 1～	
第 4 週	大和王権と古墳文化	大和王権の発展と古墳文化 1 9～	
第 5 週	飛鳥の宮廷	推古朝の政治と飛鳥文化 2 5～	
第 6 週	大化の改新	中大兄皇子と改新政治 2 8～	
第 7 週	律令国家の成立と白鳳文化	律令国家成立期の政治と白鳳文化 3 1～	
第 8 週	(答案返却と学力補充)		
第 9 週	平城京の政治	律令政治の展開 3 9～	
第 10 週	〔近代〕 大日本帝国の戦争	近代日本の政治と外交、 第二次世界大戦への道のりと太平洋戦争のすべて	
第 11 週	戦時下の国民生活	大東亜共栄圏の実態、国民生活の崩壊 (ビデオ教材使用)	
第 12 週	敗戦と戦後改革	連合国の動向と原爆投下、沖縄戦と基地 (ビデオ教材使用)	
第 13 週	〔古代〕 天平文化	国家仏教と天平芸術 4 3～	
第 14 週	(夏休みの課題 成果報告)		
第 15 週	平安遷都	平安京への遷都と律令制 4 7～	
第 16 週	平安貴族と弘仁・貞観文化	唐風文化の盛行と密教 5 0～	
第 17 週	摂関政治と国風文化	藤原摂関家の栄華と国風文化 5 7～	
第 18 週	院政と平氏政権	院政の展開と武士社会の形成 7 0～	
第 19 週	鎌倉幕府	武家支配の浸透 7 6～	
第 20 週	鎌倉思想	新仏教の発達と旧仏教 9 0～	
第 21 週	鎌倉文化	文化の新傾向 9 0～	
第 22 週	(答案返却と学力補充)		
第 23 週	南北朝動乱と室町幕府	南北朝から室町幕府の政治・外交 9 7～	
第 24 週	応仁の乱と戦国時代	応仁の乱と戦国大名の成長 1 1 7～	
第 25 週	北山文化と東山文化	北山・東山文化と庶民文化の形成 1 1 3・1 2 5～	
第 26 週	〔近世〕 西欧諸国との接触と織田政権	西欧諸国の動きと織田信長の統一事業 1 3 8～	
第 27 週	豊臣政権の全国統一	秀吉の天下統一事業と文化 1 4 1～	
第 28 週	幕藩体制の成立	江戸幕府の成立と身分制度 1 5 0～	
第 29 週	鎖国と元禄・化政の文化	対外貿易と鎖国、元禄・化政文化 1 5 8～、1 7 5・1 9 8	
第 30 週	現代世界と日本	占領下の日本、主権回復、高度成長 3 1 5～	
学年末試験・答案返却・学力補充			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)